

【労働政策フォーラム・パネル用資料】

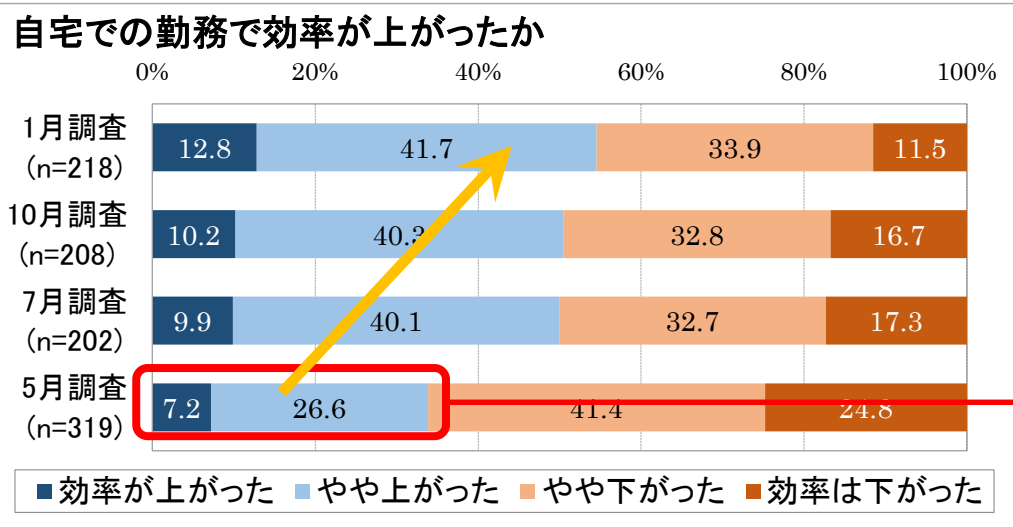
テレワークは定着するのか？

「働く人の意識調査」結果から

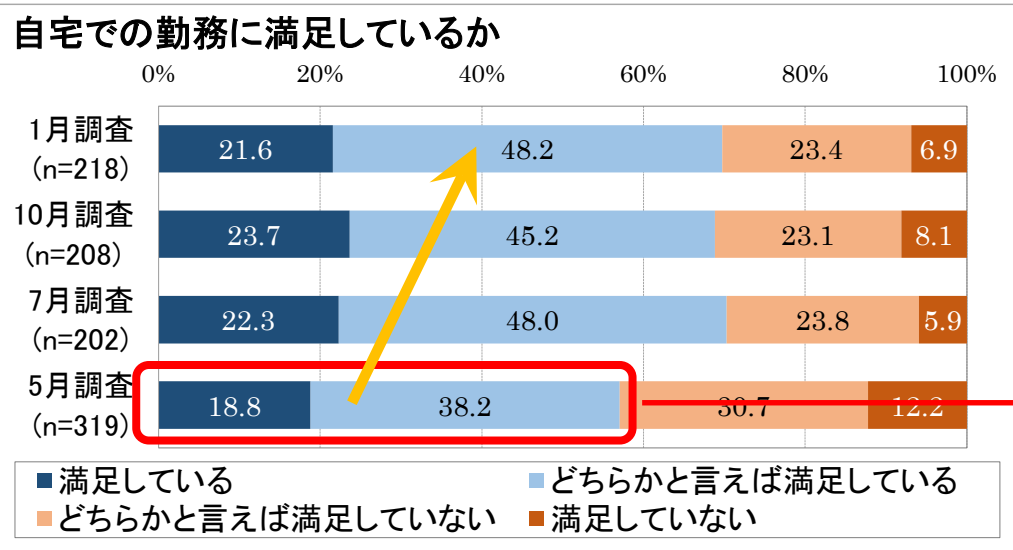
2021年3月8日

公益財団法人 日本生産性本部
生産性総合研究センター
柿岡 明

在宅勤務の効率と満足



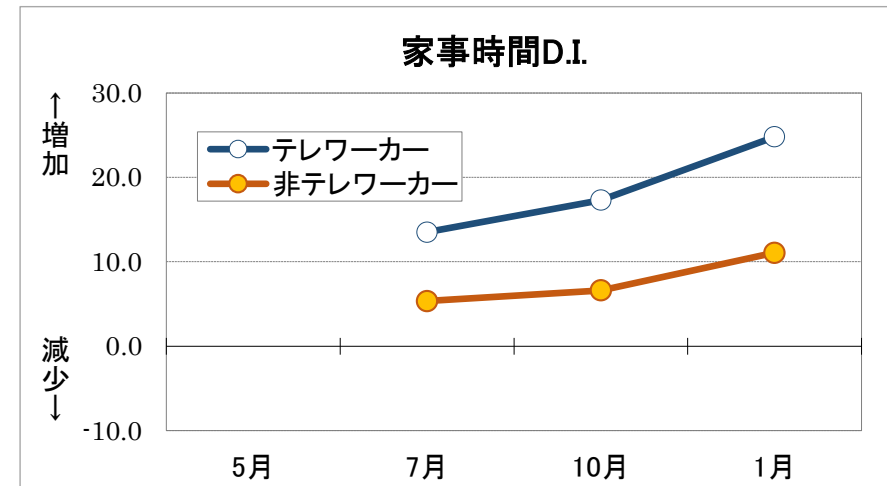
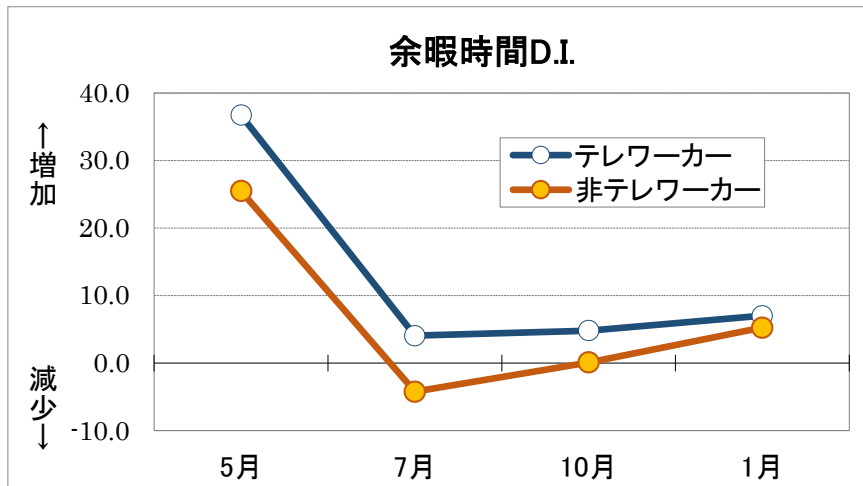
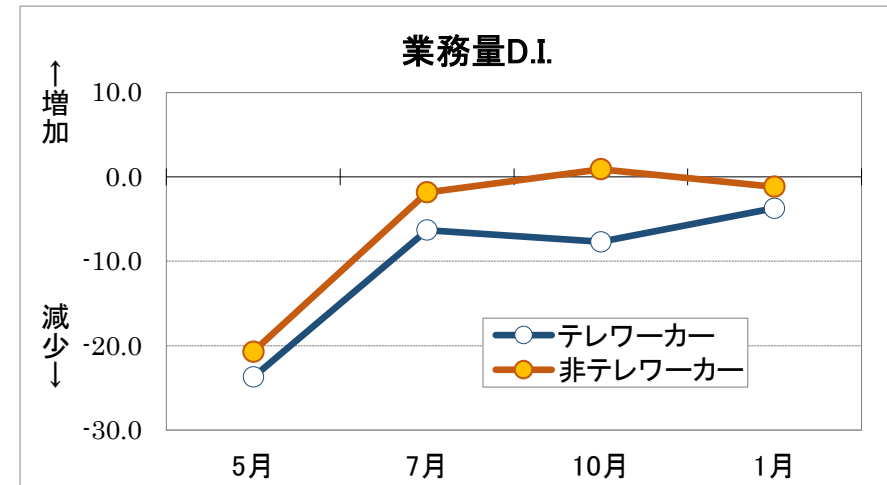
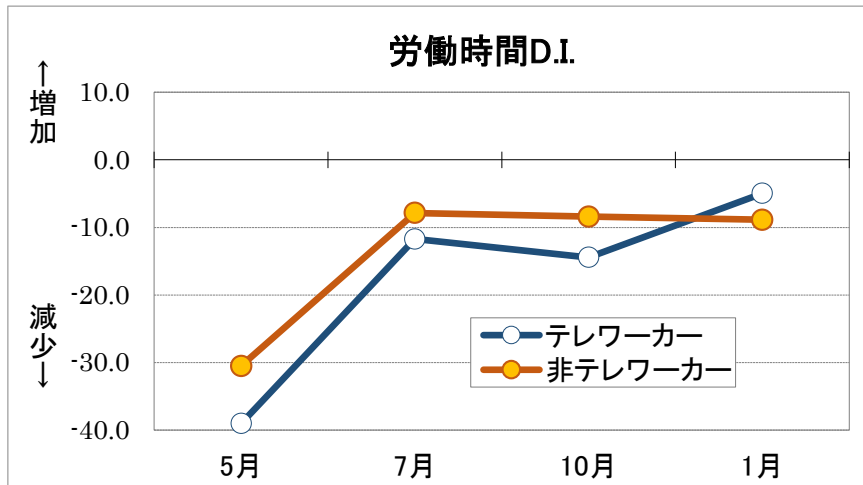
- 5月調査で、在宅勤務で「効率が上がった」は3割程度、一方「満足」は6割近い。両者の乖離が大きな話題になった。
- 7月以降、在宅勤務で「効率が上がった」は増加。「満足」も増加している。



- 7月以降、オフィス回帰・テレワーカーの選別、テレワークの課題解決が進んだことが「効率」を向上させた。
- テレワークの満足は、仕事だけでなく通勤不要による感染リスクの回避も含まれる。

テレワークと労働時間

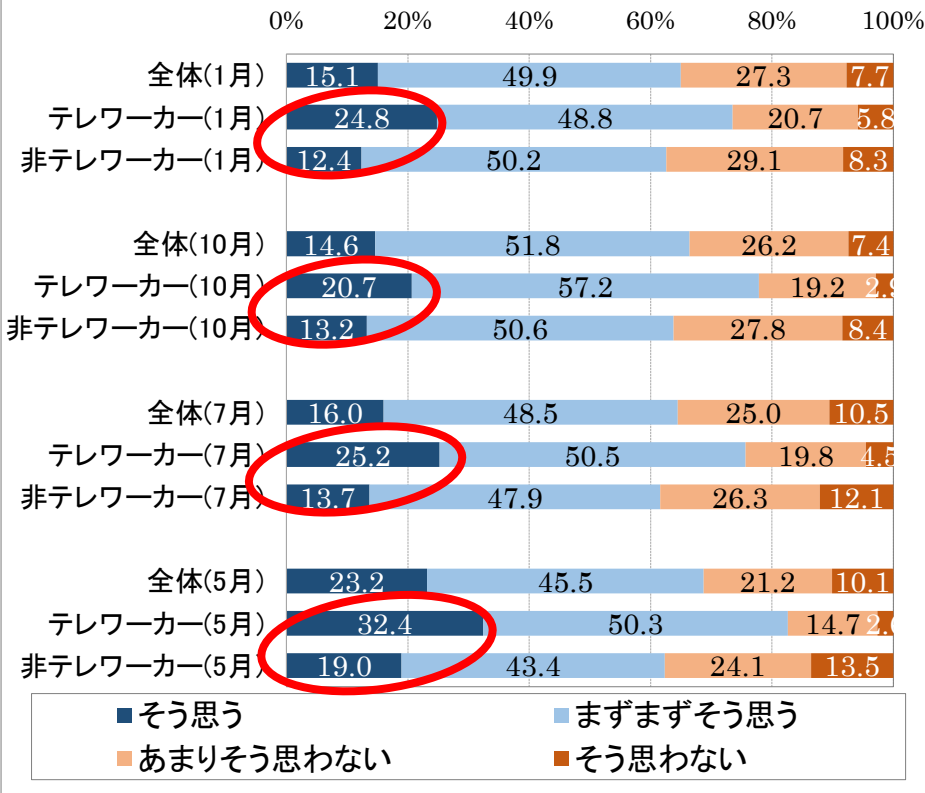
D.I.(Diffusion Index)=増加(%)－減少(%).
 プラスの場合、当該指標が増えており、マイナスの場合は減っている。



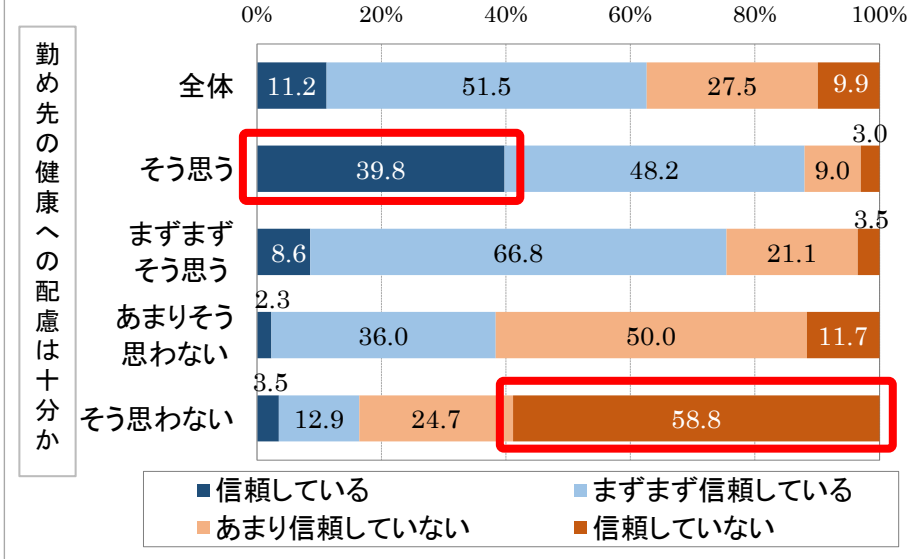
- テレワーカー、非テレワーカーとも、概ね同様の傾向を示している。
- テレワーカーは労働時間と業務量で減少幅が大きく、余暇時間と家事時間で増加幅が大きい。

コロナ時代のテレワークの意味(1)

テレワーク有無別・勤め先は健康配慮をしているか



健康配慮感別・勤め先への信頼の程度



● テレワーカーは、「勤め先は、健康に十分な配慮をしてくれている」と感じる者の割合が多い。

※設問文「新型コロナウイルスの流行に際して、あなたの勤め先は、あなたの健康に十分な配慮をしてくれていますか」

● 健康への十分な配慮を感じている雇用者は、勤め先への信頼感が強い。

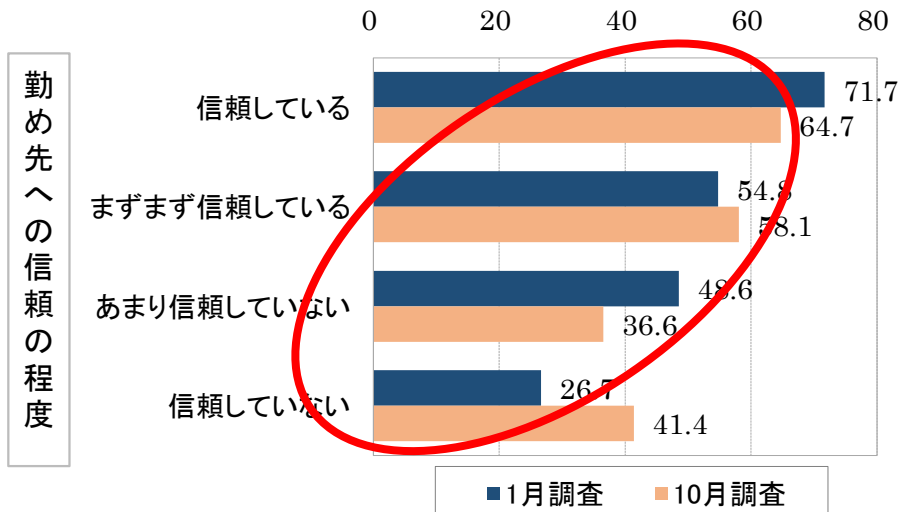
※設問文「あなたの勤め先への現在の信頼の程度を教えてください」

- テレワークは、健康・命を守る取り組み。
- 健康配慮は、勤め先への信頼を強める。

コロナ時代のテレワークの意味(2)

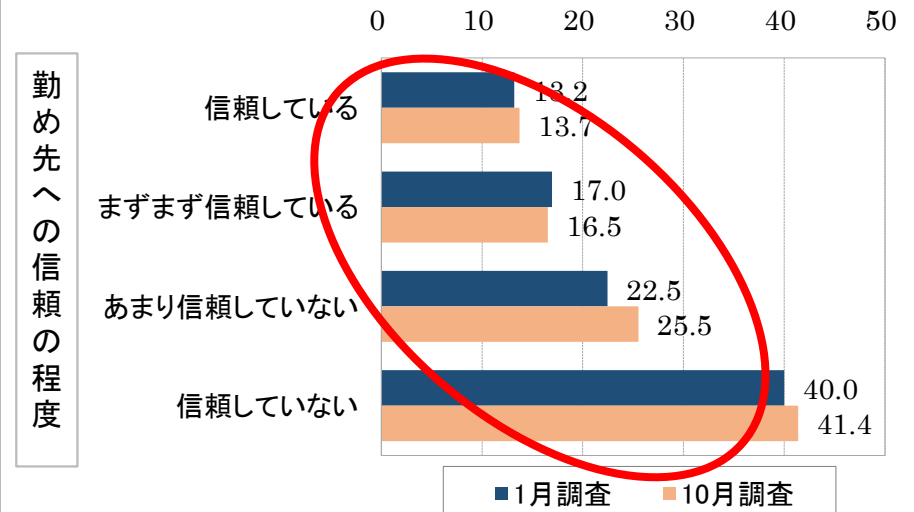
「勤め先への信頼」は、何をもたらすか？

勤め先への信頼別「現在の仕事のために自己啓発」 (%)



- 勤め先への信頼感が強い雇用者は、「現在の仕事に必要な知識・能力を身に付けるため」に自己啓発を行う割合が多い。

勤め先への信頼別「転職・独立のために自己啓発」 (%)

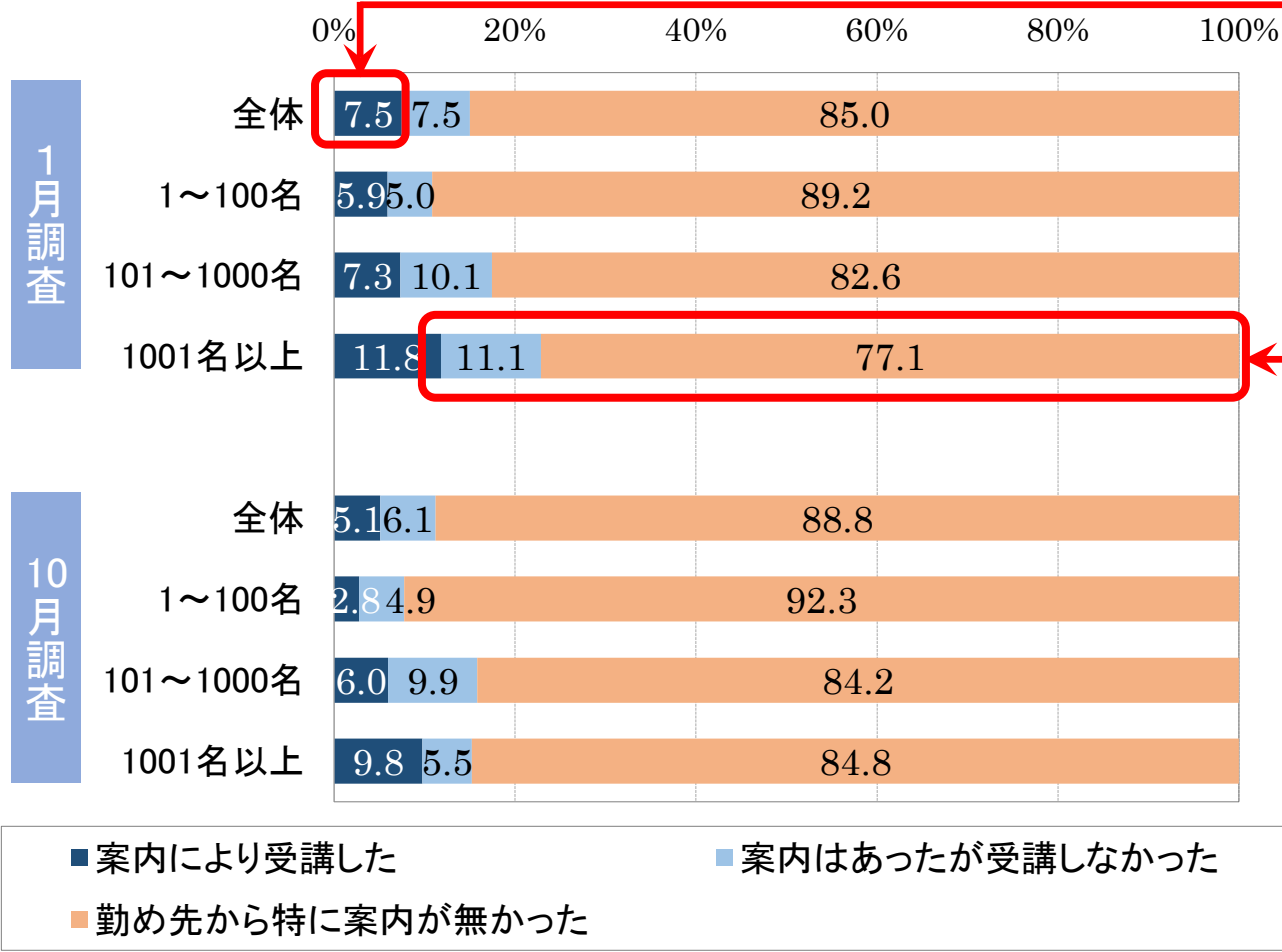


- 勤め先への信頼感が乏しい雇用者は、「転職・独立のため」に自己啓発を行う割合が多い。

「勤め先への信頼」は重要な指標。健康配慮を通じて「信頼」を高めることで、仕事の質の向上が期待できる。

日本型雇用慣行は既に崩れている(1)

コロナ禍以降のOff-JTの受講有無



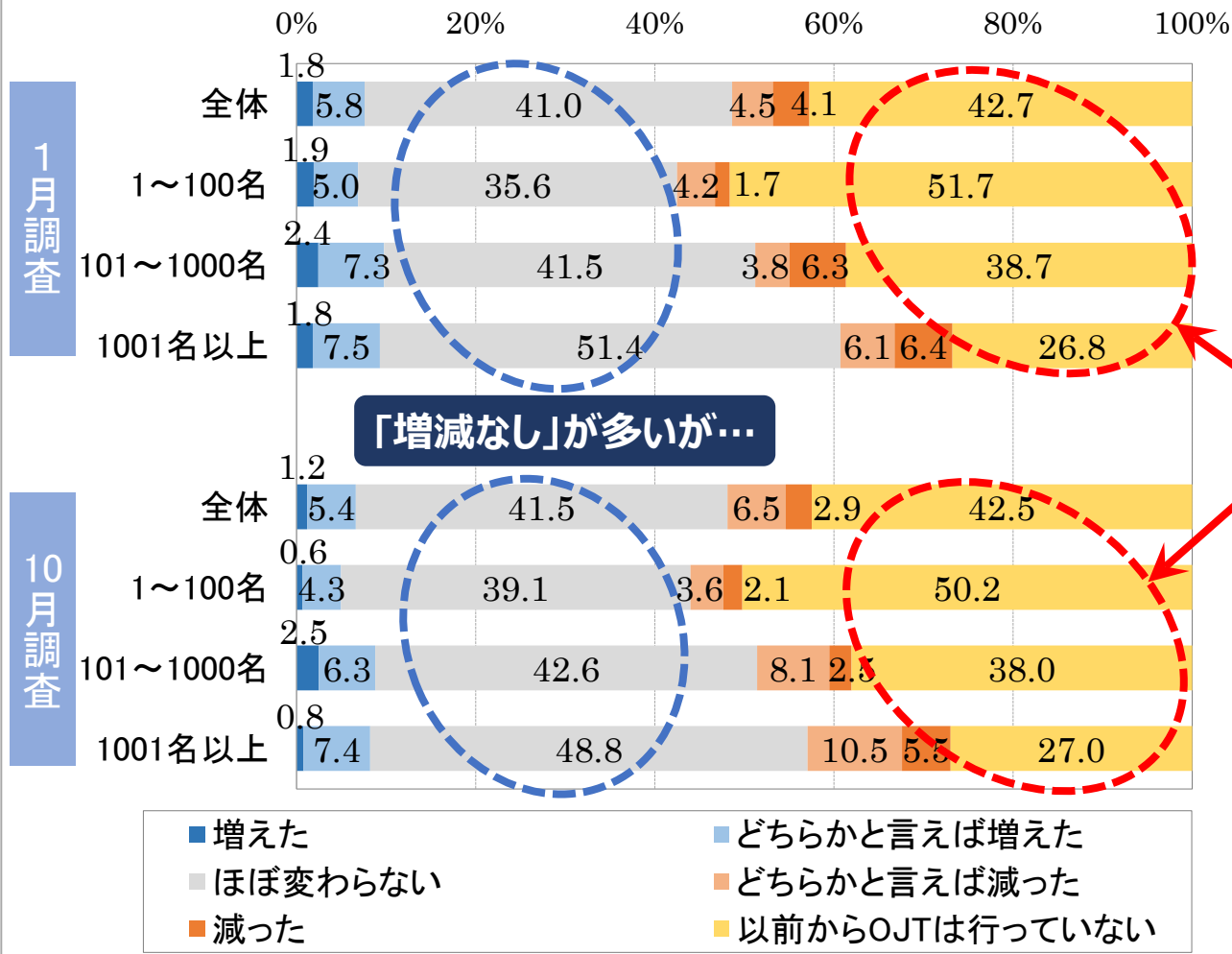
直近1年でOff-JTを受けたのは7.5%にとどまる

大企業でも9割近くがOff-JTを受けていない

コロナ禍で集合研修の手控えが原因か？

日本型雇用慣行は既に崩れている(2)

コロナ禍後のOJTを【行う】機会の増減



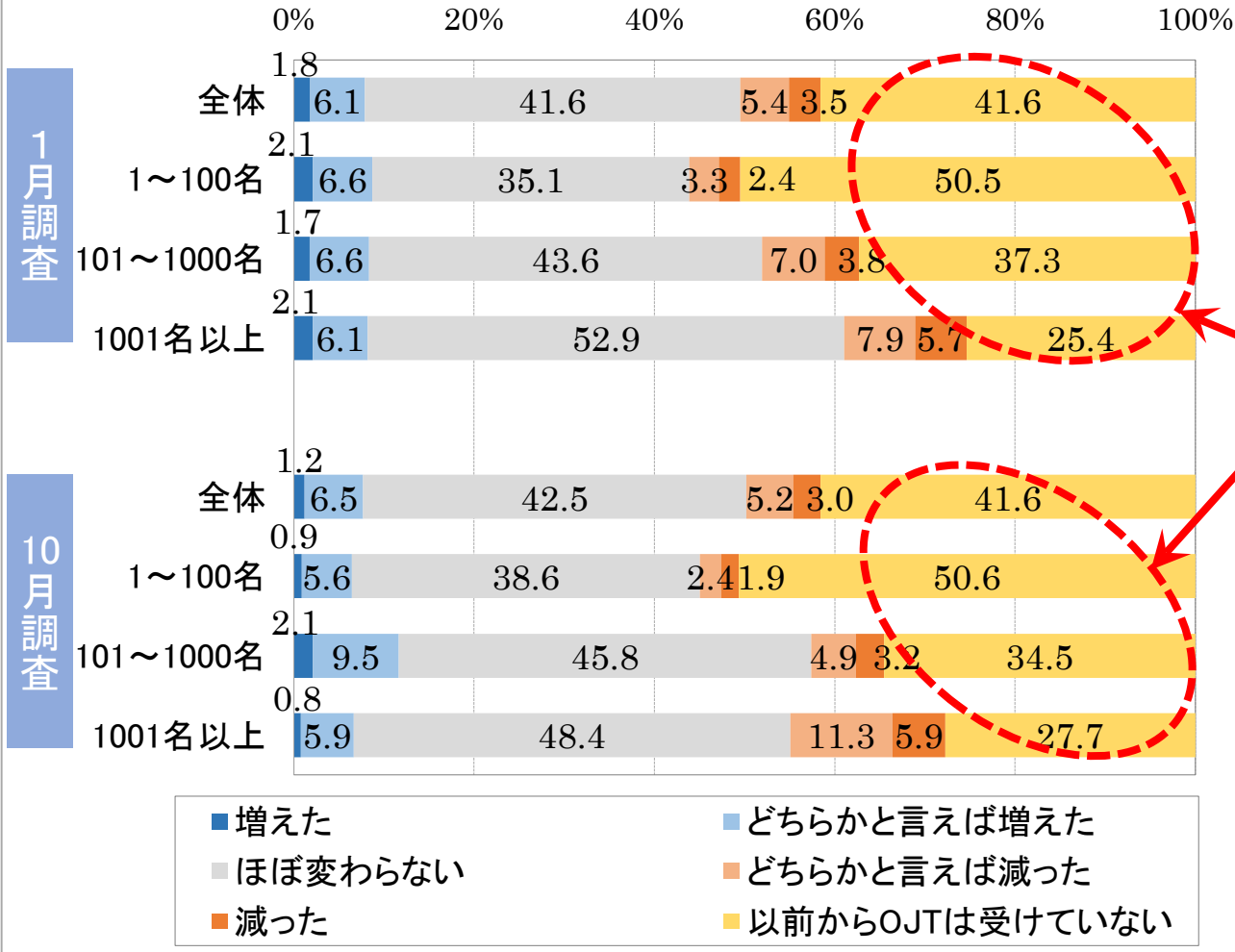
新型コロナウイルスの流行以降、仕事を通じて、あなたが職場の人たちに指導、アドバイス(OJT)を行う機会の増減はありましたか。

全体の約4割は、コロナ禍以前からOJTを行っていない



日本型雇用慣行は既に崩れている(3)

コロナ禍後のOJTを【受ける】機会の増減



新型コロナウイルスの流行以降、仕事を通じて、あなたが職場の人たちから指導、アドバイス(OJT)を受ける機会の増減はありましたか。

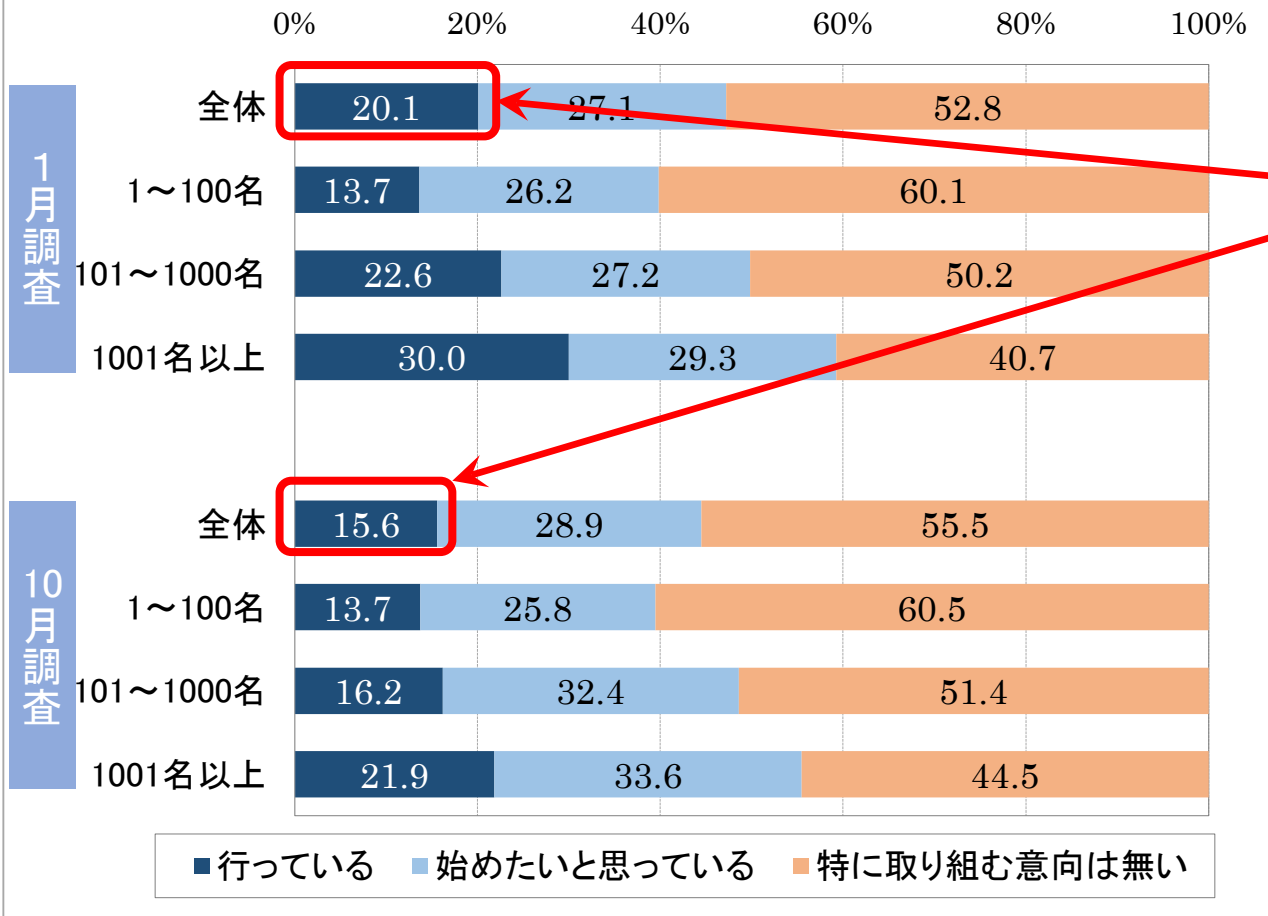
全体の約4割は、コロナ禍以前からOJTを受けていない

「OJT大国・日本」のイメージを覆す結果

企業は人材育成力を喪失している

低調な自己啓発

自己啓発の実施有無



あなたは仕事・キャリアに関わる能力やスキルを高めるための取組(自己啓発)を行っていますか。

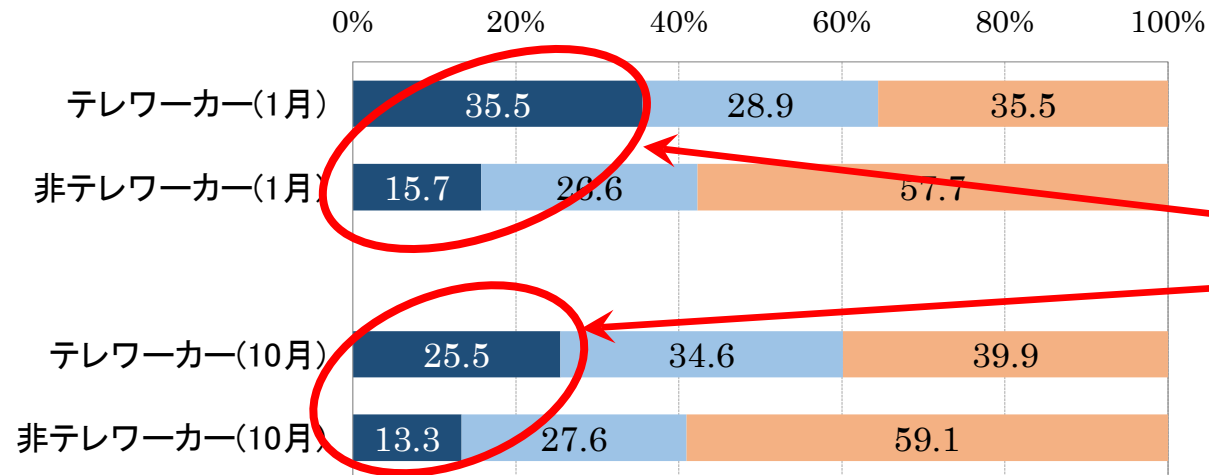
自己啓発に取り組んでいる人は2割前後にとどまる

人材育成も自己啓発も低調

人材の劣化が心配

テレワーカーは自己啓発に意欲的

自己啓発の実施有無

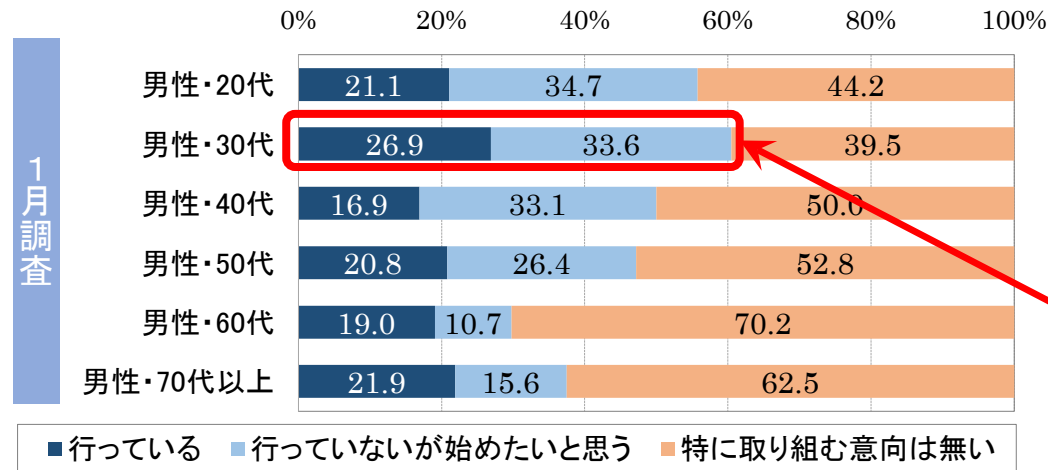


■ 行っている ■ 行っていないが始めたいと思う ■ 特に取り組む意向は無い

テレワーカーは、自己啓発に取り組む率が高い。

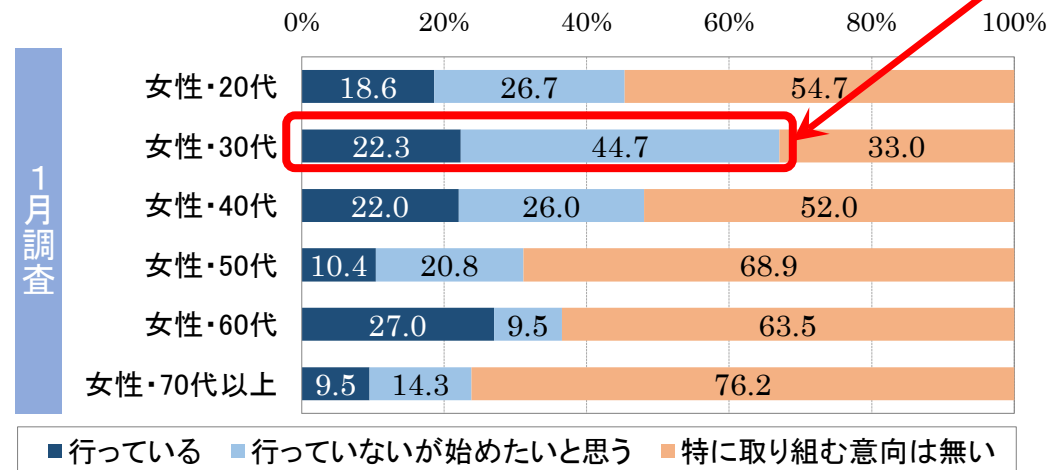
人材育成で希望が持てる要素

性年代別・自己啓発の実施状況

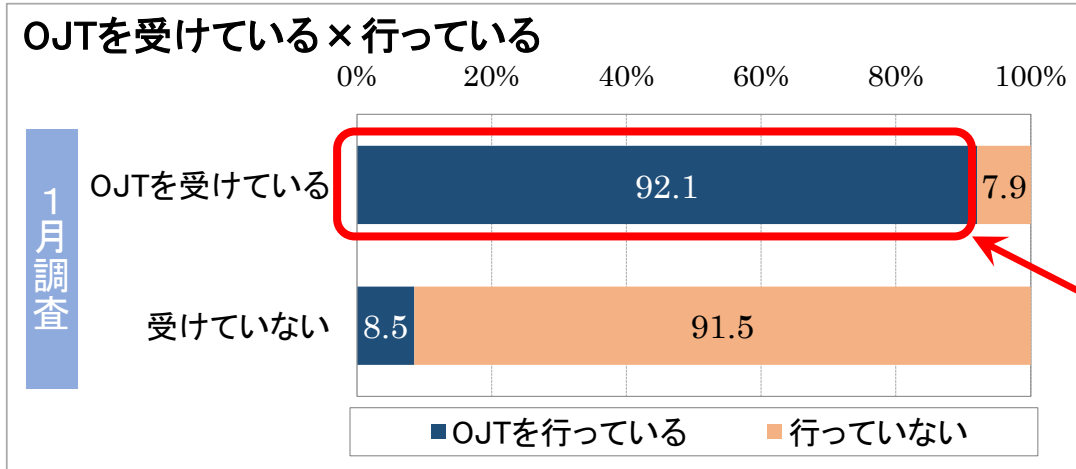


男女とも、30代は自己啓発に前向きな人が多い

性年代別・自己啓発の実施状況



人材育成で希望が持てる要素

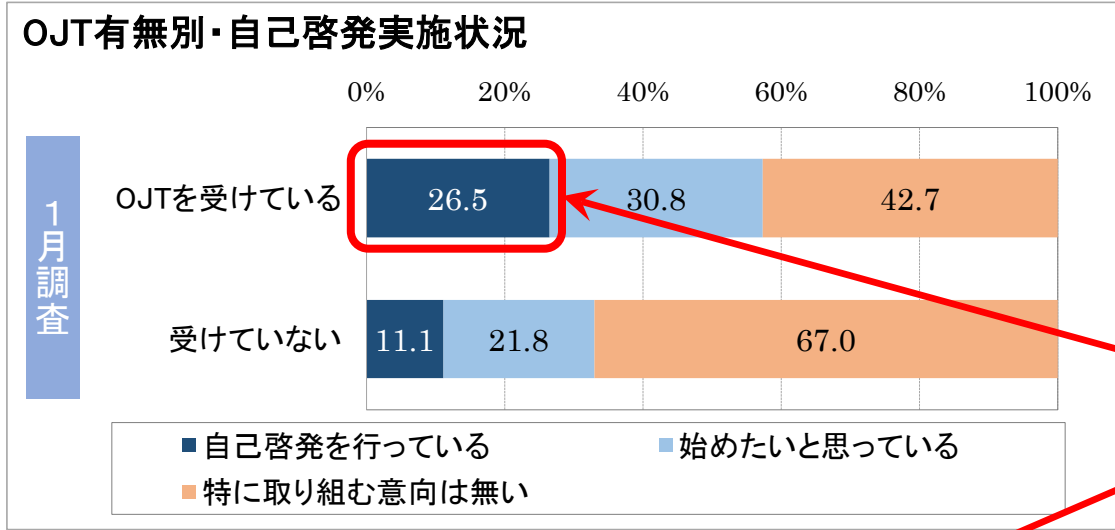


OJTを「受けている」人の9割以上はOJTを「行っている」

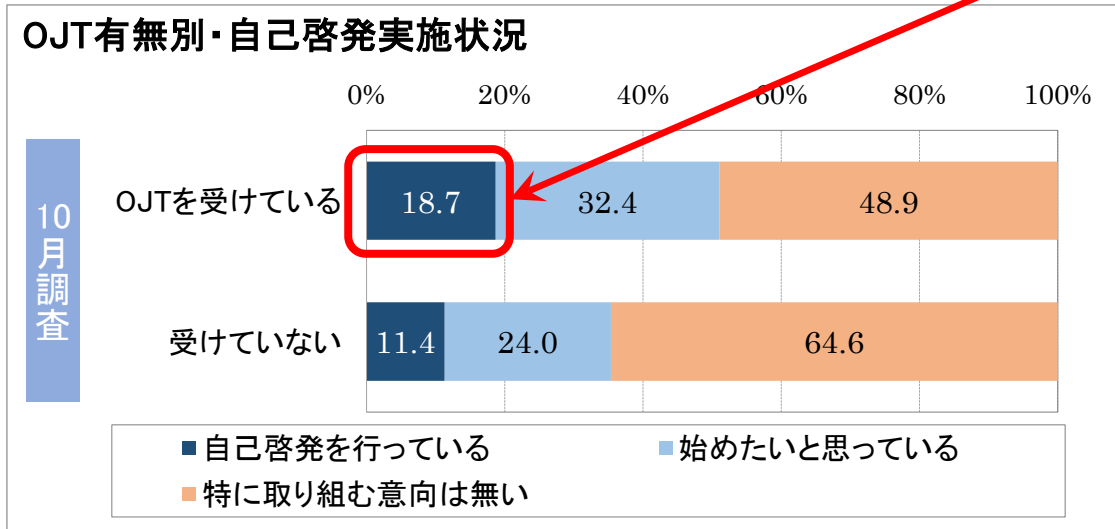
「教育の互酬」の仕組みが働いている

「人を育てる」企業風土は、人から人に継承されていく

人材育成で希望が持てる要素



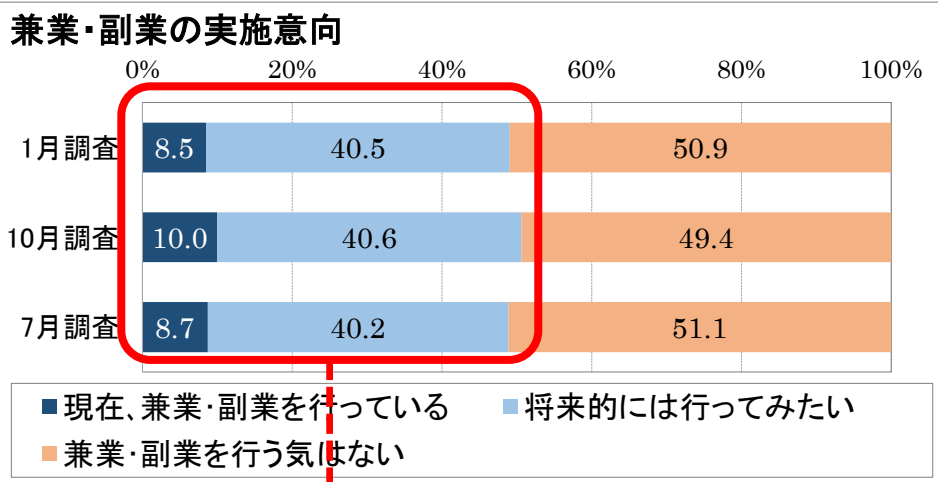
OJTを「受けている」人は、自己啓発に取り組む率が高い



OJTが自己啓発のきっかけになる？

OJTを通じて「自分育て」の風土が継承されていく

副業には5割が積極的だが...



約5割の雇用者が、兼業・副業に積極的

自身の収入・雇用に不安を感じている雇用者は、兼業・副業に積極的な割合が多い。

コロナ禍が収束すると、副業熱も冷める？

